

2007年4月27日

学生の皆様へ

明治大学 学生厚生課

## 「新型インフルエンザ対策ガイドライン (フェーズ4以降)」について

2003年12月以来、東南アジア・中央アジア・欧州などの広い地域において、高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)の発生が確認され、トリへの感染からヒトへの感染が拡大し、今後、これが変異してヒトからヒトへの感染を引き起こす新型インフルエンザウイルスになることが懸念されています。

この度、厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議において、新型インフルエンザ対策における具体的な方策の重要な参考資料として、「新型インフルエンザ対策ガイドライン(フェーズ4以降)」がとりまとめられました。

厚生労働省 HP に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/09.html>

↑ フェーズ4 = ヒトからヒトへの新型インフルエンザの感染が確認されているが、感染集団は小さく限られている。

また、下記を参考に自覚症状などに留意し、健康に不安または異常を感じた場合は、速やかに最寄りの保健所、あるいは対応が可能な医療機関に問い合わせをするとともに、学生厚生課(電話：03-3296-4212)に報告してください。

### 記

#### 1 ヒトへの感染が確認されている国・地域

(2007年4月11日現在 WHO 鳥インフルエンザ Website)

国	感染者数	死亡者数(内数)
インドネシア	81	63
カンボジア	7	7
タイ	25	17
中国	24	15
ベトナム	93	42
ラオス	2	2
アゼルバイジャン	8	5
イラク	3	2
トルコ	12	4
エジプト	34	14
ジブチ	1	0
ナイジェリア	1	1
計	291	172

## 2 感染経路について

現時点では、ウイルスのヒトからヒトへの感染は無いが、極めて限定されている状態であり、感染者の多くは病気の鳥やその排泄物の接触により感染したものです。

## 3 感染した場合の症状について

アジア等で発生している高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）にヒトが感染した場合、初期症状は“突然の高熱（ほとんど38以上）”“咳”“全身倦怠”“筋肉痛”などインフルエンザと同じような症状が出ます。

## 4 予防方法について

通常のインフルエンザは、感染した人の咳・くしゃみ・つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用、流行地への渡航・人混みや繁華街への外出を控え、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。

もしも新型インフルエンザが出現した場合も、通常のインフルエンザと同様に感染防御に努めることが重要です。

## 5 関連情報

外務省 海外安全ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/anzen/>

厚生労働省（鳥インフルエンザに関する情報）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou02/index.html>

厚生労働省検疫所（海外渡航者のための感染症情報）

<http://www.forth.go.jp>

国立感染症研究所ホームページ

[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian\\_influenza/index.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html)

在外公館リスト

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/list/index.html>

東京都医療機関案内サービス“ひまわり”

<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.asp>

以上

参考：WHO の分類によるインフルエンザ流行のフェーズ

	フェーズ1：ヒト感染のリスクは低い。
	フェーズ2：ヒト感染のリスクはより高いがヒト感染はない。
現在	フェーズ3：ヒト-ヒト感染は無いが、極めて限定されている。
	フェーズ4：ヒト-ヒト感染が増加していることの証拠がある。
	フェーズ5：かなりの数のヒト-ヒト感染があることの証拠がある。
	フェーズ6：パンデミックが発生し、一般社会で急速に感染が拡大している。 (パンデミック=世界的大流行)